

### 子どもの本だな 21

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

#### ジェレミー・フィッシャーどんのおはなし

ビアトリクス・ポター さく・え

いしい ももこ やく (福音館書店)

ある雨の日、かえるのジェレミー・フィッシャーどんは友達に小魚をごちそうしようと釣りに出かけました。かっぱとゴム靴を身に着け、睡蓮の葉のボートのうえで一時間近く浮きをにらみましたが、何も釣れません。お弁当に蝶々のサンドイッチを食べ、釣り場所を変えるとすぐに魚がくいつきました。ところが、フィッシャーどんが釣り上げたのは、背中にとげのあるトゲウオでした。暴れる魚に刺され、逃げられたところに、大きなマスがやってきました。フィッシャーどんはマスにばかりとくわえられ、池の底へ沈んでいきました。

かっぱがまずかったおかげで、フィッシャーどんはマスにはき出されました。やわらかな色調の水彩画は、フィッシャーどんや池の動植物を丁寧に描き、おはなしを存分に伝えます。読んでもらえば四歳から。

(竹内)

#### 黒ネコの王子カーボネル

バーバラ・スレイ 作 山本 まつよ 訳 (岩波書店)

夏休みになった日、ロージーはくたびれたほうきと黒猫を手に入れましたが、ほうきは魔法のほうき、黒猫は魔法をかけられたネコの国の王子カーボネルでした。カーボネルはネコの国に戻るため、魔法を解いてほしいとロージーに頼みますが、ロージーは気位の高いカーボネルとけんかしたり、魔法を見せびらかして箒をボロボロにしたりと失敗ばかり。それでも、ロージーとカーボネルは友達のジョンと三人で協力し魔法を解くための道具を探して博物館のまわりの店を次々に覗き込み、古い喫茶店で魔法の大釜を見つけます。食器が足りないと嘆く店の主人に、博物館に陳列してあった女王様の食器を魔法で取り寄せて大喜びされ、大釜をもらうことができました。

三人は道具集めに四苦八苦しますが、最後には魔法も解け、カーボネルは王になりました。

日々の暮らしの中に魔法が自然に入りこみ、主人公たちと一緒に苦労しながら、大きな満足へとつながる物語です。十歳くらいから楽しめます。(西村)

7月	8月	7月・8月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
9日	6日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
16日	13日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
23日	20日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

#### お知らせ

「一日図書館員」を募集

日時：7月26日(日)

9:15~18:00

内容：本の貸出、図書整理など、司書と同じ仕事を体験します。

対象：小学6年生~高校3年生で町立図書館の利用者  
定員：3名

申込期限：7月23日(木)

本人が来館して申し込んでください

# 『子どもと本』

松岡 享子 著

岩波書店

252, 25 頁 2015 年 2 月刊 820 円 (請求記号) 岩波新書 (新赤版 1533)

「子どもが好きで本が好き」。自分が大好きなものに関わることが出来る児童図書館員という仕事に就いて五十年以上、著者は、まさにこの二つのために毎日を生きてきたと言っても過言ではないだろう。本書は、著者自身の子ども時代の本やことばの体験、子どもたちの成長と本の関わりについて、昔話のもつ力、本を選ぶことの重要性、子どもと本をとりまく環境を整えること、この五つの柱に沿って、深く考え、丁寧にことばをつくって語られる。

本当に人をつくるのは、主人公との完全な一体化が可能な十五〜六歳までの読書であること。文字の獲得以前の幼児期には、ことばを心に刻む能力が並はずれて高いこと。「耳からの読書」は子どもが自分で読めるレベルの数段先をいつているのだから「子どもがいやがるまで」読んでやること等々、子どもと本の関わりを述べる第二章は示唆に富む。改めて、短い子ども時代に「よい本」に出会うことの大切さ、幸せを実感し、子どもの周りにいる大人として、その手助けができればと思う。

本が血となり肉となる子ども時代に、何を讀んでやるか、何を薦めるか。本を選ぶことについて述べた第四章も印象深い。「ひとりの読者がある本に出会って何らかのよい結果を生んだとき、その本がその人にとってよい本になる」のではあるけれども、やはり、多くの子どもたちが二十年、三十年と変わらずに楽しみ、何度も繰り返し読んできた本が基本となるだろう。子どもたちの反応を直に見ることのできる図書館員が、推薦リストを作ることの意味、基本となる本を発信していくことの責任を感じる。

幼稚園や小学校で絵本を讀む活動に関わる方も増えてきた現在、子どもに関わる多くの方々に讀んでほしい一冊である。

(池田)

## 日曜日の絵本の時間

7月19日

(8月は休み)

おはなしの部屋

11:00~

2~3歳の子どもと保護者

カレンダーの×印は休館日です。

開館は 10 時~18 時まで。

金曜日は 20 時まで開館しています。

## 7月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	<del>8</del>	<del>7</del>	8	9	10	11
12	13	<del>14</del>	15	16	17	18
19	<del>20</del>	<del>21</del>	22	23	24	25
26	27	<del>28</del>	29	30	<del>31</del>	

## 8月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	<del>3</del>	<del>4</del>	5	6	7	8
9	10	<del>11</del>	12	13	14	15
16	<del>17</del>	<del>18</del>	19	20	21	22
23	24	<del>25</del>	26	27	28	29
30	<del>31</del>					

## 地下水

先月、司書資格取得のために実習に来ていたAさんは、真面目で熱心、何事にも正面から取り組み手を抜かない人だった。そんなAさんと話をして驚いたことの一つが家に冷蔵庫がないということだった。冷蔵庫を使わないことにはきつかけは、ある夏、なんで家の中がこんなに暑いんだろうと考えた結果らしい。農業や酪農をやっているわけでもなく寒冷地に住んでいるわけでもないのにそんなことができるのかと思ったが、お店をわが家の冷蔵庫だと思えばいいと涼しい顔で言う。

翻ってわが家を見れば、最寄りのスーパーに行くにも陸橋を越えなければならぬ買物難民予備軍で、買いだめが過ぎて、調味料や保存食、冷凍食品のストックの消費期限の確認に追われる日々だ。

各地の豪雨被害の原因が地球温暖化にあると知り、電力使用を抑制したいと思いつながら何もできない身にとつて、柔軟な発想に目からうろこの思いであった。冷蔵庫を捨てることはできそうもないが、今度買う時は一回り小さくしようと思った。

(片木)

